

アロペシアX・脱毛症に対するトリカS、トリカキュアの効果

北林 麻琴¹⁾ 高岡 朋史²⁾ 大川 博²⁾

Makoto KITABAYASHI Tomofumi TAKAOKA Hiroshi OKAWA

協賛：株式会社スケアクロウ

毛周期停止症は特にポメラニアンに好発する体幹部を中心とした非炎症性脱毛症であり、全身症状や内分泌異常を伴わないことが特徴的で、Alopecia Xもしくは脱毛症Xともよばれており、根治的な治療法は確立されていない。今回、脱毛症状改善が報告されているPantoea agglomerans lipopolysaccharide (LPS) と松樹皮ポリフェノール (Pinus Pinaster polyphenol) を有効成分とした配合剤 (トリカS、トリカキュア) を従来の治療での薬剤応答性が低い症例、難治例に追加使用した。その有効性と安全性について報告する。

はじめに

毛周期停止症の治療において、臨床では種々の治療法が行われている。今回、当院における従来の治療法にPantoea agglomerans lipopolysaccharide (LPS) と松樹皮ポリフェノール (Pinus Pinaster polyphenol) を有効成分とした配合剤 (トリカS、トリカキュア) を追加乗せすることの安全性、有効性を評価する。また薬剤応答性の低い症例、難治例における上乗せ効果を評価、報告する。今回難治例は、持病により所定の薬剤が使いにくい例、副作用が出てしまい投与を中断せざるを得なかった例、長期の治療で発毛が鈍くなってきた例、一度は生えたもののその後再発した例とした。

方法

すでに当院で脱毛症状の改善のため治療を開始しているが、症状改善出来ていない犬オーナーに参加を募ったところ30例を超す応募があった。それら

に粒剤のトリカS、スプレータイプのトリカキュアを必要に応じて使い分けた。

給与期間は6カ月間とし、従来の治療を継続したまま追加使用し安全性と有効性を検討した。評価は、著名改善、改善、やや改善、変化なし、悪化の5段階とした。

結果

原稿提出のため給与期間途中である8月末時点での結果を記載する。11月の本会ではすべての集計結果を発表する。

登録症例数：35例

8月末で予定給与期間6カ月間終了症例数：25例

上記期間中に再来院しなくなったため脱落：2例

死亡：1例 (不慮の事故による死亡)

給与中の有害事象：涙焼け1例、涙焼けと体幹毛着色併発1例 (両症例とも給与中止)

2023年2月から開始し8月末時点で6カ月間の予定給与期間となる25例全体の改善状況は次の通りとなった。

著名改善7例 (28.0%)、改善7例 (28.0%)、やや改善0例 (0%)、変化なし11例 (44.0%)、悪化0例 (0%) であった。

考察

8月末時点で、今回の給与期間において重篤な有害事象は発生しておらず、トリカS、トリカキュアは従来の治療に追加しても安全に使用出来ると考え

られた。

従来の治療に追加することで、薬剤応答性が低く、今回難治例とした症例群において56.0%の脱毛改善 (改善以上) が認められた。また、脱毛症状があるものの、持病などのために思うように投薬ができない症例にトリカSを使用し投与したところ3週後

ほどからアンダーコートが生え始め、背中にまで広がった症例もあった。背中のはる部分は生えにくく、これまでの治療で難航していた部分である。

トリカS、トリカキュアは、従来の治療に安全に併用することが出来、脱毛改善が期待出来ると考えられる。



2023年3月撮影

図1 犬 (ポメラニアン)、雄 (去勢済)、1.8kg、6歳



2023年7月撮影



2023年3月撮影

図2 犬 (ポメラニアン)、雄 (去勢済)、2.7kg、7歳



2023年7月撮影

¹⁾ひまわり動物病院：〒184-0004 東京都小金井市本町2丁目19-36

²⁾株式会社スケアクロウ：〒150-0045 東京都渋谷区神泉町11-8 梅山ビル2F